

交換留学（派遣）帰国報告書

皆さんが無事留学を終えられたことを嬉しく思います。本報告書は以下の目的のために使用されます。

- ① 皆さんの留学に関する状況を把握するための資料です。
- ② 今後、交換留学プログラムを改善するための重要な資料となります。
- ③ 留学を考えている後輩達のための有益な資料となります。留学経験を共有するために、ぜひご協力ください。

本報告書は帰国後1ヶ月以内に所属部局教務係に提出してください。

*各項目のスペースが足りない場合は、適宜スペースを足して記入してください。

本報告書を閲覧する際には、あなたの氏名、学籍番号、E-mailは公開されません。

氏名：

学籍番号：

e-mail：

留学先大学：国立台湾大学

留学先での所属学部・研究科：管理学院・工商管理学系

留学先での在籍身分：交換留学生

留学期間：2016年9月－2017年6月

神戸大学での所属学部・研究科：経営学部

学年（出発時）：3年

本報告書記入日：2017年7月20日

1. 留学先大学について

1-1. 留学先大学の「学期」について

学年開始月日：9月12日

学年終了月日：6月23日

学期：

①9月12日～1月20日

②2月20日～6月23日

1-2. 留学先大学の特長、人気のある分野等

国立台湾大学は、台湾内で最も頭の良い大学というもあり、学生は驚く程勉学に励む。24時間空いている総合図書館で夜遅くまで勉強している学生はとて多く、中間や期末テスト前は、朝早くから席取りをしに行かなければ席がなくなります。また、学生は勉強ばかりではなく、ボランティアやサークル活動、インターンにも励んでおり、様々なことに力を入れている学生が多い印象です。大学は、規模が大きい総合大学であるため、人気のある分野は、特にない印象。授業数も多いため、興味のある授業は散らばっている模様です。留学生は、ほぼ全員が「General Chinese」を履修しており、週に6時間中国語を学習している。さらに中国語を学びたい人には、「Enhancing Chinese」や「Chinese for Tourism」なども開講されており、中国語を学ぶだけでも充実した選択肢があります。

1-3. 授業（カリキュラム等）について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

General Chinese / Enhancing Chinese：基本留学生全員が履修しています。クラスは20人ほどで、スピーキングやライティング、リスニングのテストのほか、出席率などでも評価される。クラスによってはプレゼンテーションもあります。台湾大学の中国語のクラスは繁体字で学び、また、単語によっては台湾独特の言い回しで中国語（北京語）を学ぶ。テストでは簡体字中国語を使用することも認められます。

Principles of Economics：1年間を通しての授業で、主にマクロ経済学全般について英語で学びます。留

学生は約10人、現地の学生は約40人の比較的大きなクラス。前期後期で教授が変わるが、前期はUCLAでマスターを取得した台湾人、後期はアメリカ人であり、綺麗な英語で学ぶことができた。前期は、グループワーク、課題、テストで成績が評価され、後期は出席、課題、テストで成績が評価されました。

Human Resource Management (GMBA)：20人規模のクラスであり、2人を除いて全員が海外からの留学生でした。教授は中国などに支店がある企業のCEOであり、企業の人事制度だけではなく、どのようにvisionを設定するかなど、経営学に近い授業でした。成績評価はプレゼンテーション、授業への参加、ファイナルペーパーで行われました。

他の授業については、主にシラバスに沿って講義が進められるというものでした。

1-4. 近況報告書提出後に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 ／週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	Principle of economics	魏凱立	5	4	50	毎回復習代わりのレポート課題がある。教科書はあまり使わず、教授が授業中に講義する内容がテストに出る。
2	Options and Futures	王之彦	3	3	30	中間テスト50%、期末テスト50%。講義の内容もテストの内容もとても難しい。そのため、日頃から予習復習に力を入れないとだんだんわからなくなってしまう。
3	Practical Chinese for Tourism	陳致好	2	2	25	授業内はスピーキングの練習が多い代わりに、課題は全てライティングである。より日常生活で使うような実践的な中国語を学ぶことができる。
4	General Chinese	邱顯哲	6	2	15	今期の先生はスピーキング・リスニングを重視する人だったため、授業中もグループでの発表などが多かった。宿題はなく、予習復習をしなくても授業内で繰り返し練習するため、自然と中国語が身についた。
5	Enhancing Chinese	薛涵方	4	1	15	毎回ライティングの課題があり、学期に2度グループプレゼンがあった。General Chineseと進行を合わせているため、足りない知識を補う形での授業が行われた。

1-5. 留学先大学のサポートについて記入してください。

語学面でのサポート：学期初めに Placement test というテストが行われ、中国語を学びたい人には、週6時間の General Chinese、さらに学びたい人には週4時間の Enhancing Chinese というクラスが無料で開講されています。また、1クラスあたりの人数が少ないため、しっかりと中国語を学ぼうと思えば学べる環境です。

勉学面でのサポート：各クラスにティーチングアシスタントやオフィスアワーが設定されており、講義中わからない箇所はEメールでの問い合わせや直接の質問がしやすい制度が作られています。Principle of Economics では、週に1時間TAのクラスが開講され、授業の復習や課題の解説を行い、理解度を深められました。

精神面でのサポート：交換留学生には1人1人台湾人のBuddyがあり、生活面などすべてにおいてサポートしてくれる体制が整っていました。

住居・生活面でのサポート：住居に関しては、寮に24時間体制でスタッフがおり、いつでも問題を解決してくれました。（虫の駆除なども含めて）生活面では、寮のスタッフや、Buddyがサポートしてくれます。また、それ以外でも、台湾の人はとても親切なので、基本全員の人が助けてくれます。

課外活動のサポート：各学期の初めにClub fairが開かれ、台湾大学の部活やサークルの新生歓迎のための大きな祭典が開かれ、そこで興味のあるものがあれば入会できます。どのサークルも海外留学生が入会可能であり、説明も英語や簡単な中国語を交えて行ってもらえるため、とても入りやすい雰囲気がありました。クラブやサークルに入らない人にも、管理学院には月に1度程Buddyプログラムによる異文化理解やパーティーなどが開かれ、充実した生活を送ることができます。

1-6. 神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか。

はい いいえ

2. 住居

2-1. 住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。（気をつけること等）

1年を通して湿度が高く（80%以上）、カビが生えやすいため、外出中でも風呂場の乾燥機をオンにする、乾燥剤を置く、夏場であれば除湿器をつけっぱなしにすることをお勧めします。また、ゴキブリの数も多いため、ゴキブリの繁殖期前に対策を進めるなどに気を付けたほうが良いです。

3. 生活について

3-1. 保険について

どのような種類の保険に加入したかを教えてください。

学研災付帯海外留学保険（契約タイプB）

- ・ 損害死亡 ¥3,000,000
- ・ 損害後遺障害 ¥3,000,000
- ・ 治療・救援費用 ¥100,000,000
- ・ 疾病死亡 ¥3,000,000
- ・ 携帯品損害 ¥200,000
- ・ 航空機委託手荷物遅延等 ¥100,000
- ・ 航空機遅延費用 ¥20,000

また、現地で加入した保険があれば、ご記入ください。
ありません。

3-2. PC（パソコン）について

PCの保有の状況： 日本から持参した 現地で購入した 保有しなかった

住居内のインターネットへの接続の可否： 接続できた 接続できなかった

住居内でインターネットに接続していた場合、プロバイダー、料金等について記入してください。

寮にWi f i が完備されているため、無料でインターネットが利用できます。部屋でも、ケーブルを繋げばインターネットを利用できますが、無線W i f i が届いていないため、日本円で約 1800 円のルーターを繋いで使っていました。

大学での PC の使用の可否： 使用できた 使用できなかった

大学で PC を使用していた場合、施設の場所や日本語環境等について記入してください。

「計算機及資訊網路中心」という場所で 24 時間無料で大学 PC を利用できます。また、学期ごとに 100 枚コピー無料もらえます。

3-3. 医療について

留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。

私は病院に通っていませんが、留学生の友人は風邪をひいたときに学内にある医療センターに行っていました。

健康管理あるいは衛生面について特に注意すべきこと。

お腹が弱い人は、水は買う、夜市で食べすぎないことをお勧めします。

3-4. 銀行口座について

留学先でお金を引き出せるように、どのように準備・手続きしましたか。

（現地で口座開設、キャッシュパスポート利用等）

デビットカードを利用してお金を引き出していました。現地で口座開設ができるようならば、口座開設したほうが便利で安いと思います。

3-5. 異文化体験について

留学先の文化・社会（習慣の違い等）について記入してください。

まず一番に驚いたのが 3 食全て外食であるという文化です。1 食の価格は安いですが、1 日千円ほどかかります。また、中華料理が多いため、油が多く、健康管理に気を付ける必要があります。また、社会面では、台湾人に中国についての話をする際は注意をしたほうがいいです。

大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトをもちましたか。

大学外で現地の知り合いを作る機会がなかったため、0 です。

課外活動（ボランティア、インターンシップ、アルバイト等）をしましたか。

していません。

留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。（安全性、外国人への態度等）

大学の授業が夜 9 時までであり、また、大学周辺は台湾大学の学生が夜遅くまで出歩いているため、とても安全です。また、台湾人はとても親切であるため、どこへ行っても何かあれば助けてくれます。

3-6. 留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、教えてください。

留学中に就職活動をしていたため、何度か日本に帰国しました。エントリーシート通過後は全ての企業に「Web 面接可能かどうか」の問い合わせを行い、可能でない会社に関しては、志望度に応じて帰国するかしないかを決めていました。大手日系銀行 1 社以外は Web 面接や留学生用の選考があり、留学生でも就職活動は無理なく行えると思います。しかし、日本にいる学生と比較すると、情報量が少なく、また、留学を最優先することから、エントリーできる会社も少ないため、留学前からある程度の方向性を決めて受ける業界を絞って就職活動を行うことが大切だと思いました。運よく第一志望の企業が台北に支社があり、駐在員である面接官が常務（人事役員）であったため、内定をいただくことができました。同じように留学しながら就職活動を行う日本人学生も何人かいるため、情報交換を行ったり、知り合いのついでで商社の部長クラスの方々 3 人からもお話を聞くことができました。

4. 経費について

4-1. 留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

航空運賃：361,786 (1次帰国含む)

住居費（月額×留学月数）：289,770 (= 7,430NTD × 10months × 3.9)

食費（月額×留学月数）：370,000 (= 37,000 yen × 10months)

保険料：87,180

その他：300,000

計：1,408,786 円（留学期間全体の費用）

4-2. 奨学金を受給していた場合、奨学金についてご記入ください。

（財団等名） 神戸大学基金, 40,000 円/月

（財団等名） 日本学生支援機構, 80,000 円/月

その他（渡航費等の支給） 円

5. アドバイス及び感想

5-1. 現地で参考となった留学先国の情報（出版物、ホームページ）を記入してください。

K e d d y のホームページに必要な情報が全て書かれていたため、参考にしました。

5-2. 日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。

日本の頭痛薬や整腸剤など（台湾で買うこともできるが、高い）

柔軟剤（衣類がごわごわになりたくない人）

虫刺されの薬（すごく使います）

5-3. 留学することによって得られたことについて記入してください。

（語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等）

※ 語学力については、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。

留学前：(TOEFL 等試験の名前) 点→帰国後（ ） 点

①中国語 留学前は全くしらなかったが、留学後はネイティブと日常会話ができる程に向上しました。

②異文化理解 台湾の文化だけでなく、様々な国からの留学生と交流することにより、いろんな国の文化を学ぶことができました。

③積極性 やりたいことはなんでも進んでやる、自分の意見を積極的に発言するようになりました。

④英語の専門用語 専門科目は英語で学んでいたため、英語での専門用語を身に着けることができました。

5-4. 振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。

トイレの排水問題。回数を重ねるにつれ、自分で対処できるようになりました。

5-5. 留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば

記入してください。

留学前の事前準備（奨学金など）についてのサポートしていただいたので、安心して留学できました。

5-6. 本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。

後輩に薦めます。

【理由】

①国を代表するレベルの高い大学と提携していること

国立台湾大学は正規ではなかなか入れない高度な教育機関で、KIBERプログラムのおかげでハイレベルな授業を受けることができ、また、世界中のハイレベルな学生との交流もできました。

②集中して語学を学べること

特に台湾では、日常生活で英語が全く通じないため、中国語を習得することが必要不可欠になり、現地での生活にできるだけ早く慣れるため、中国語の学習に身が入ります。

③4年で卒業ができること

一般的に、長期留学をすると、1年卒業を遅らせることが多いが、このプログラムは初めから4年での卒業が可能であるため、特に卒業をのばしたくない人にはとてもお薦めです。

④実際の留学までの準備がしっかりとできること

KIBERプログラムでは、必須科目として、英語で開講される授業を履修します。学部の他の授業ではなかなか学べない英語でのディスカッションやプレゼンテーション、レポートの書き方などを2年生から学ぶため、実際に留学が始まってからも授業に早く慣れることができました。

5-7. 留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。

（5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価）

- ・留学先大学の授業の「質」（内容、レベル等）に満足しましたか： 5
- ・留学先大学の学生サービスに満足しましたか： 5
- ・留学先の住み心地（安全性等）に満足しましたか： 5
- ・住居の「質」（広さ、料金等）に満足しましたか： 5
- ・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか： 4
- ・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか： 5
- ・留学全体の総合的な評価： 5

5-8. その他 自由に記入してください。

国立台湾大学は、英語と中国語（北京語）を同時に学ぶ環境が整っています。台湾大学の学生は、語学を学ぶ意欲が高い人が多く、「授業以外でも更に中国語を学習したい」という意欲がある人は、学内で言語交換のパートナーを容易に見つけることができ、私の場合は3人と言語交換ができました。そのおかげで、0からのスタートにも関わらず、10か月という期間で留学当初設定した「Buddyと中国語オンリーで会話ができるようになる」という目標を達成することができました。英語に関して、私が履修していた専門科目は英語ネイティブの教授によるもので、正しくきれいな英語も学ぶことができました。留学生の友人もアメリカやイギリス出身などのネイティブ英語スピーカーがたくさんおり、留学生同士の会話の中で英語スピーキング能力をのばすことができたと感じています。また、台湾からアジア旅行をする際には、日本からより近く・安いいため、アジアを回ってみたい人にはとてもいい留学先だと思います。もちろん日本への渡航費も安く、近いため、就職活動も並行して行うことができました。

6. 留学経験の共有について

あなた自身の写真や大学キャンパス等の写真があれば、ぜひ報告書に添付して送ってください。
(デジタル画像をお願いします。)

6-1. 神戸大学では所属部局教務係及び国際交流課にて、留学を考えている学生のために報告書を閲覧できるように保管します。あなたは、本報告書を閲覧資料とすることに同意しますか。(あなたの氏名、学籍番号、メールアドレスは公開されません。)

*担当部署（所属部局又は国際交流課）が本報告書の原本を保管します。あなたが閲覧資料にすることに同意しない場合であっても、あなたの状況等を把握するために及び本プログラムを改善するために、学内の関係部署に転送することがあります。

はい

いいえ

6-2. あなたの本報告書の一部を引用して、本学の印刷物やホームページに掲載することに同意しますか。

はい

いいえ

6-3. もし写真を提出する場合、あなたの写真を報告書とともに閲覧資料にすることに同意しますか。

はい

いいえ

6-4. もし写真を提出する場合、あなたの写真を本学の印刷物やホームページに掲載することに同意しますか。

はい

いいえ

6-5. 国際教育総合センターが実施する「海外留学フェア」にご協力いただけますか。(留学体験を発表するなど)

*ご協力いただける場合、後日、留学生センター教員よりあなたに連絡することがあります。

はい

いいえ

ご協力ありがとうございました。本報告書は大変有益な資料となります。

本報告書の提出先は以下のとおりです。**原則として e-mail で提出してください。**もし、e-mail を使用できない場合は、郵送又はファックスで提出願います。

経営学研究科学部・大学院教務係 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1

FAX: +81-78-803-7294 bkymu@b.kobe-u.ac.jp